

漁港・漁村における地震・津波対策の事例

水産総合研究センター水産工学研究所

水產土木工學部水理研究室

中山 哲嚴

はじめに

2004年は、台風が多数日本に上陸し、沿岸、内陸ともに多くの被害をもたらした。さらに2004年12月26日に発生したインド洋地震津波は悲惨な被害をもたらした。このような自然災害に対する対策に関しては政府、地方公共団体とも継続した努力がなされているが、上記のような災害が続発していることを背景に、防災に対する国民の関心は近年ますます高くなっている。

このような自然災害に備えるために、我々は過去の自然災害によってもたらされた被害状況、自然災害のメカニズムを検討し、必要な施設（ハード）、体制（ソフト）を整備してきている。しかしながら、想定した規模を上回ることは十分考えられ、整備した施設は効果を発揮するものの、完全ではない可能性は十分にある。従って、人的損失を最小にするように施設整備や避難、救助、復興などの体制作りが必要であると考えられる。

ここでは、1993年7月12日午後10時北海道南西沖地震津波により109人の命が失われた奥尻島青苗地区、1999年9月24日午前5時台風18号により発生した高潮により12人の命が失われた八代海に面する不知火町松前地区の事例を報告するとともに漁港漁村における災害対策のあり方について述べる。

北海道奥尻青苗地区での津波災害とその対策

1993年7月12日午後10時17分北海道南西沖地でマグニチュード7.8の地震が発生し、同時に津波が発生した。この津波は、地震発生後4分という短時間で奥尻島に到達した。この津波により、奥尻島南端に位置する青苗地区は壊滅的な被害を受けた（写真1参照）。同津波に関する解析は数多く行

われているが、詳細は省略する。津波により、死者 109 人、家屋倒壊及びその後に発生した火災によりほとんどの家屋が消失した。漁港漁村地区での防災対策に関する検討が行われ、漁港及びその周辺の防災施設（防潮堤、人工地盤等）が整備された。その概要について紹介する。



写真 1. 青苗地区津波来襲後（出典：北海道南西沖地震全記録、北海道新聞社編）



写真2. 青苗地区復興後

熊本県不知火町松合い地区での高潮災害とその対策

1999年9月24日午前5時頃、台風18号による高潮は、不知火町松前地区を襲い、堤防を越え（同地区では潮位偏差は3m以上と推測される）、地区内に海水が流入した。その結果、死者12人という災害をもたらした。同地区的災害の状況、復興対策等について述べる。

